

## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和8年2月19日

北海道運輸局

協議会名:さっぽろ連携中枢都市圏地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名:地域間幹線系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	地方運輸局等における二次評価結果
北海道中央バス株式会社	札幌・栗山線など全12系統	利用動向に応じたダイヤ設定を実施した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A 公的資金が投入されている広域交通について、利用者数の目標1,546,944人に対し、1,640,357人となっており、目標を上回ることができている。 A 公的資金が投入されている広域交通の収支率について、目標の45.5%に対し、50.3%となっており、目標を上回ることができている。 A 公的資金が投入されている広域交通の公的資金投入額について、目標である334,809円以下に対し283,673円となっており、目標を上回ることができている。 A 都市間を結ぶ広域交通ネットワーク数について、目標である13ネットワークを確保している。 A 老朽化の更新に寄与することができた。	沿線市町村の利用者のニーズを反映させつつも、持続可能な生活交通とするため、必要に応じてルートや運行回数等を見直し、運行の効率化を図る。	・計画どおり事業は適切に実施されている。 ・引き続き、地域の関係者が連携して、貨客混載・路線再編・観光需要の取込・各種利用促進策などの地域間幹線系統における乗合バス事業の生産性向上に取り組むことを期待する。 ・また、上記取組にあたっては、取組効果を把握して、収支改善に資する取組となるように、適宜見直しを行うことを期待する。
夕張鉄道株式会社	札幌代行線①	関係市町との協議を行い、利用者の利便性向上のため、2ルートでの運行とした。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。		沿線市町の利用ニーズを踏まえ、持続可能な生活路線として、必要に応じ運行回数・運行経路の見直しを図っていく。	
あつまバス株式会社	千歳線	関係自治体と協議を行い、ダイヤ、停留所の見直しを実施。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。		沿線住民・利用者のニーズに合せダイヤ改正・停留所の設置を行うとともに、生活交通の維持をする為、運行の効率化を図る。	
ジェイ・アール北海道バス株式会社	長沼線①	鉄道との接続を意識したダイヤ設定など利便性向上を図った。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。		運賃改定により収支率が改善されたことを踏まえ、引き続き沿線自治体と連携し利用促進に取り組む。	
有限会社下段モータース	あいの里金沢線など全2系統 【車両減価償却費等国庫補助金】	・JRへの接続等を考慮したうえで、ダイヤ変更について検討するとともに、バス利用へのきっかけ作りを目的として小中学生を対象とした「お試し乗車券」を発行した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。		公共施設を結んでいる路線であることを周知するとともに、駅への接続など住民が利用しやすいダイヤを構築し、利用者増を図る。また、利用者の状況に合わせた運行経路・バス停等の検討を行う。	
有限会社新篠津交通	北新線	利用動向に応じたダイヤの見直しを実施。現状の運行回数が適正なのかを判断した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。		自治体と連携し利用促進に取り組む。車両老朽化更新にて、より良い利便性向上を図る。	